

(仮称)療育センター整備基本構想【別冊】

(仮称)療育センター整備基本構想  
策定に伴う対象者アンケート調査

— 分析報告書 —

2010年(平成22年)3月

福山市



# 目 次

## 1 調査の概要

---

(1) 調査目的	1
(2) 調査設計	1
(3) 配布及び回収結果	1
(4) 設問内容	1
(5) 集計について	2

## 2 集計結果

---

### ● 回答者の属性等に関する設問

(1) 記入者	3
(2) 問 1 住まい	3
(3) 問 2 子どもの年齢	4
(4) 問 3 発達の気になる状態に気づいた年齢	4
(5) 問 4 発達の気になる状態に気づいた人	5

### ● 健診等に関する設問

(1) 問 5 1歳6か月児健診または3歳児健診を受けましたか	5
(2) 問 5-① 精密健診を勧められましたか	6
(3) 問 5-②③ 精密健診・療育支援を受けましたか	6
(4) 問 5-④ 療育支援を受けていない理由	7
(5) 問 5-⑤ 精密健診を受けなかった理由	8

### ● 医師の診断等に関する設問

(1) 問 6 医師の診断を受けましたか	8
(2) 問 6-① 医師の診断を初めて受けた年齢	9
(3) 問 6-② 受診のきっかけ	9
(4) 問 6-③ 主な診断名	10
(5) 問 6-④ 診断を受けた後の医師の指示	10
(6) 問 7 診断・診療を受けるにあたり困っていること	11
(7) 問 8 障がいの手帳の有無	11
(8) 問 8-① 持っている障がいの手帳の種類	12

● 相談・療育等に関する設問	
(1) 問 9	発達のご案内になる状態に気づいた頃に相談した相手 …… 12
(2) 問 10	発達のご案内になる状態について相談したいこと …… 13
(3) 問 11	相談するにあたり困っていること …… 13
(4) 問 12	相談しやすい条件、雰囲気 …… 14
(5) 問 13	療育、相談等の施設を利用していますか …… 14
(6) 問 13-①	利用している施設 …… 15
(7) 問 13-②	利用している回数 …… 16
(8) 問 14	療育施設等に期待すること …… 16
● 生活支援に関する設問	
(1) 問 15	子どもの生活に関して望む支援 …… 17
● 療育施設等の連携に関する設問	
(1) 問 16	療育施設等の連携において共有・伝達すべき情報 …… 17
● (仮称)療育センターに関する設問	
(1) 問 17	(仮称)療育センターに必要と思われる機能 …… 18

### 3 (仮称)療育センターに対する意見(自由意見)

---

● 意見数と意見分野	
(1) 意見数	…… 19
(2) 意見分野	…… 19

#### 【添付資料】

資料1【単純集計結果一覧表】	…… 21
資料2【アンケート調査票】	…… 33

# 1

## 調査の概要

### (1) 調査目的

本アンケート調査の目的は、現在、県東部地域の療育施設や学校・学級等へ通園・通学しているお子さんの家庭に対して、これまでの健診や医療機関の受診状況、療育等に関する状況とともに、今後の療育のあり方や（仮称）療育センターに望むことなどをお聞きし、基本構想策定の基礎資料に資することを目的として行いました。

### (2) 調査設計

- 調査対象：県東部地域の療育施設等を利用している18歳までの児童の保護者の中から無作為に抽出
- 調査方法：各施設から配布し、郵送にて回収
- 配布依頼先：肢体不自由児通園施設，知的障害児通園施設，難聴幼児通園施設，児童デイサービス，特別支援学校，特別支援学級，通級指導教室
- 調査期間：2009年（平成21年）11月20日～12月11日

### (3) 配布及び回収結果

配布数（票）	回収数（票）	回収率（％）
495	246	49.7

### (4) 設問内容

設問内容は、「回答者の属性等に関する設問」と「健診等に関する設問」、「医師の診断等に関する設問」、「相談・療育等に関する設問」、「生活支援に関する設問」、「療育施設等の連携に関する設問」、「（仮称）療育センターに関する設問」の6種類と、自由記入である「（仮称）療育センターに対する意見」によって構成しています。

### (5) 集計について

- アンケートの集計は、有効票について設問毎の単純集計を基本としています。
- 記号の「SA」は単一回答（シングルアンサー）、「MA」は複数回答（マルチアンサー）の設問です。

- 「複数回答可」としている項目については、全回答者（もしくは条件に基づく回答者）
- 数を基礎として比率算出を行っているため、合計値は100%を超える場合があります。
- 比率については、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、比率の数値の合計が100%を前後する場合があります。
- 集計結果における「不明」とは、当該設問への無回答の他、回答指示に沿っていない場合（例えば、単一回答の設問における複数回答など）の件数（票数）を示しています。
- 回答者数が極端に少ない場合は比率算出をせず、票数（回答数）で示しています。

## 2

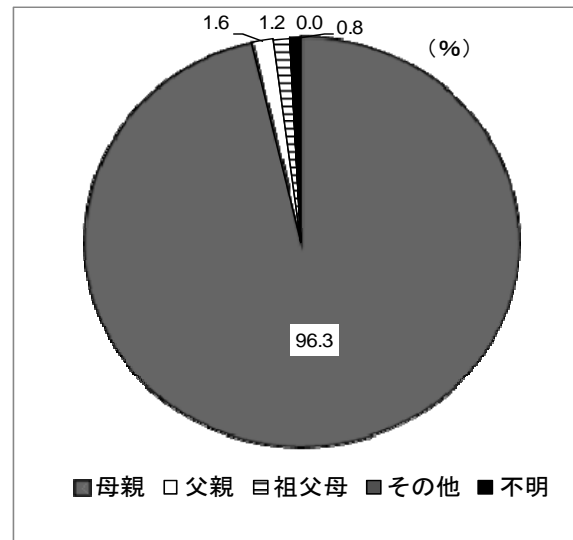
## 集計結果

## ◆回答者の属性等に関する設問

## (1) 記入者 (SA)

「母親」96.3%、「父親」1.6%となっています。

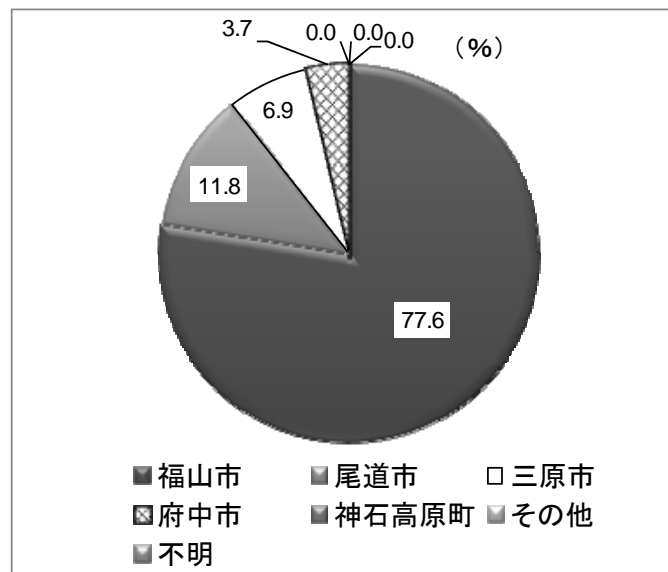
【回答者数：246人】



## (2) 住まい (問1) (SA)

住まいは「福山市」(77.6%)、「尾道市」(11.8%)、「三原市」(6.9%)、「府中市」(3.7%)、「神石高原町」(0.0%)で、福山市が7割を超えています。

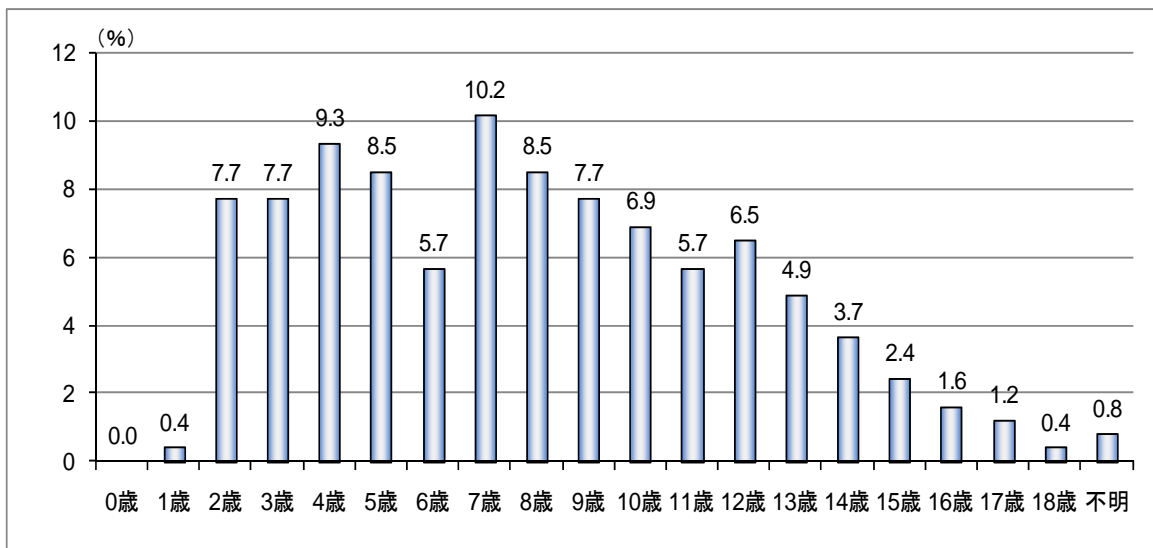
【回答者数：246人】



### (3) 子どもの年齢（問2）（SA）

年齢別には、「7歳」が10.2%と最も多くを占めていますが、「2歳～12歳」までは各5%以上で、「1歳」(0.4%)及び「13歳」以上は5%以下と少なくなっています。「0歳」及び「19歳」以上はいません。

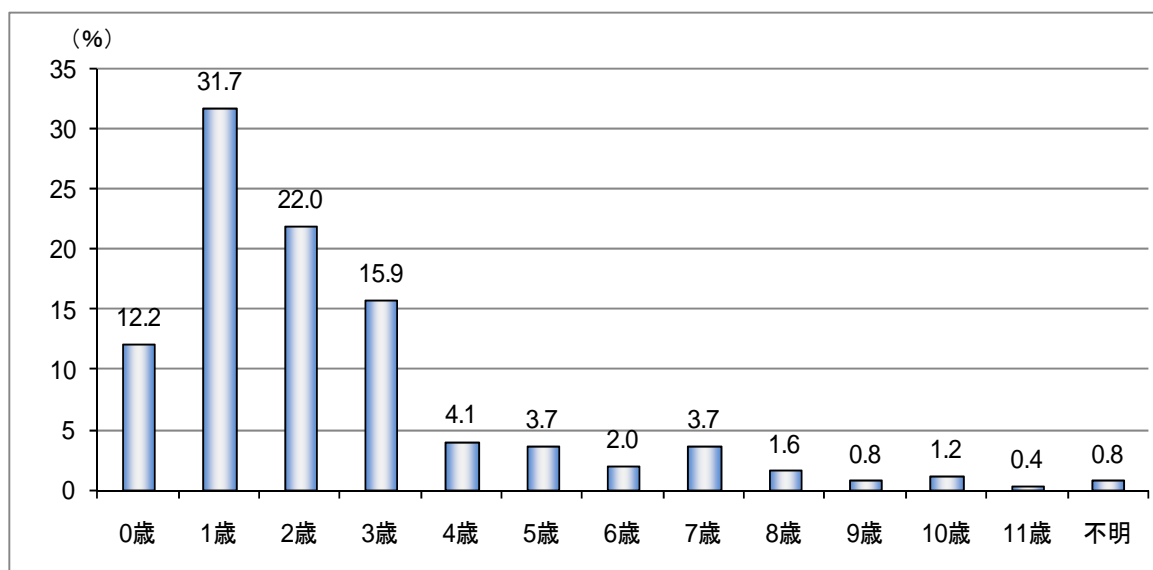
【回答者数：246人】



### (4) 発達の気になる状態に気づいた年齢（問3）（SA）

「1歳」が31.7%、「2歳」が22.0%で、「1歳」及び「2歳」で半数を超えており、「0歳」(12.2%)と「3歳」(15.9%)を含めると8割を超えていることから、発達の気になる状態の発見はほとんどが3歳以下となっています。

【回答者数：246人】

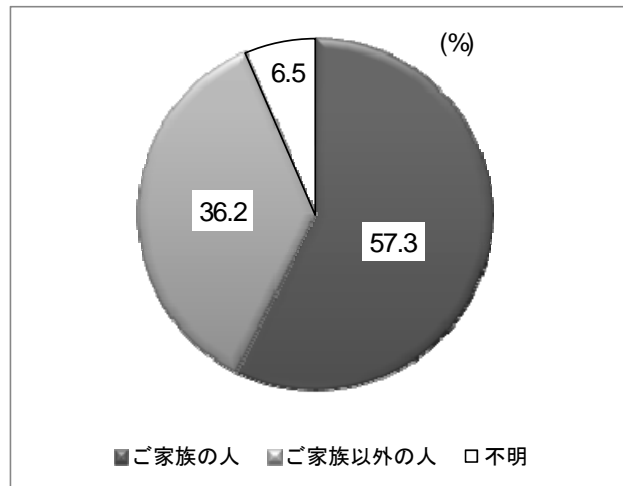




### (5) 発達の気になる状態に気づいた人（問4）（SA）

発達の気になる状態に気づいた人は57.3%が「ご家族の人」ですが、一方で36.2%の人が「ご家族以外の人」が気づいています。

【回答者数：246人】



### ◆健診等に関する設問

#### (1) 1歳6か月児または3歳児健診を受けましたか（問5）（SA）

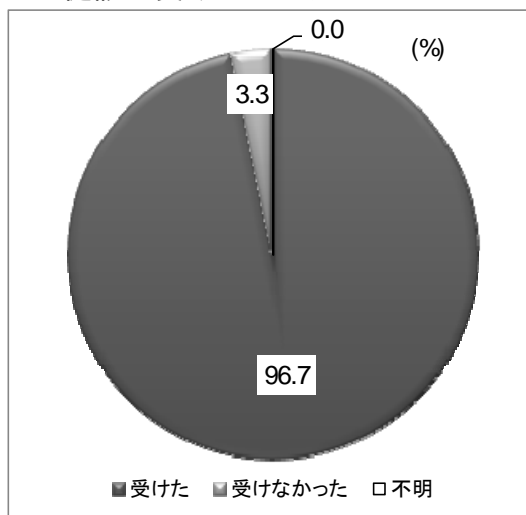
1歳6か月児または3歳児健診は96.7%の子が受けています。

1歳6か月児と3歳児健診「両方」を受けた子は76.1%と7割以上となっています。

「1歳6か月」児健診を受けなかった子は2.9%で、健診を受ける子のほとんどが「1歳6か月」児健診を受けています。

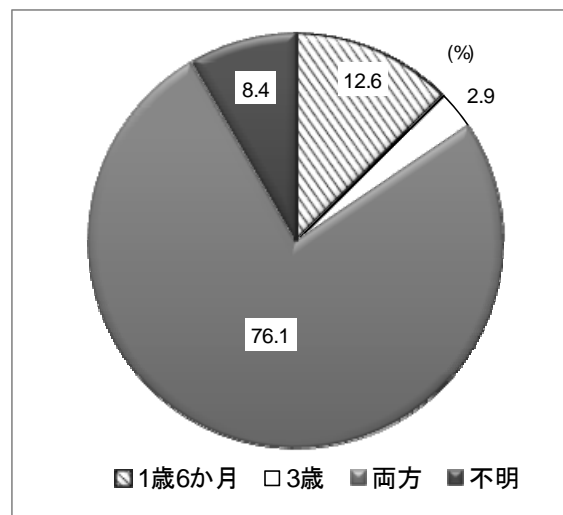
【回答者数：246人】

健診を受けましたか



【回答者数：238人】

いつ健診を受けましたか

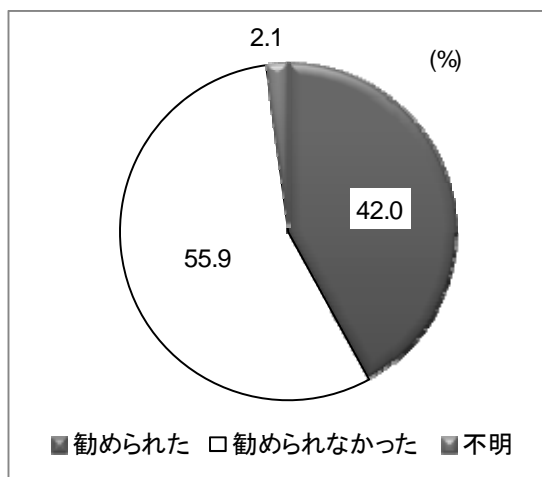


(2) 精密健診を勧められましたか (問5-①) (SA)

1歳6か月児または3歳児の健診の際、精密健診を「勧められた」子は42.0%で、「勧められなかった」子が55.9%となっています。  
精密健診を「勧められた」子のうち、「1歳6か月」児健診で50%以上の子が精密健診を勧められています。

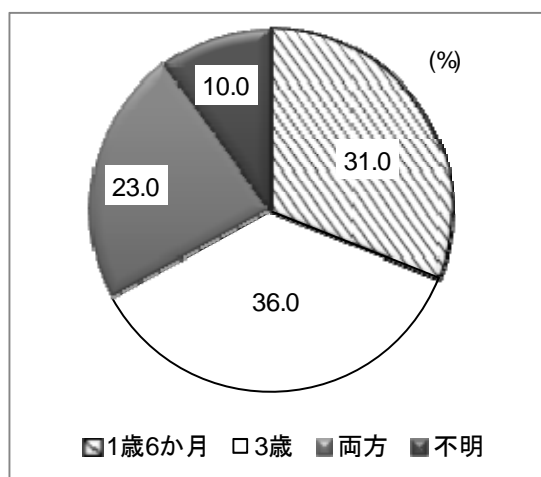
【回答者数：238人】

精密健診を勧められましたか



【回答者数：100人】

いつ精密健診を勧められましたか

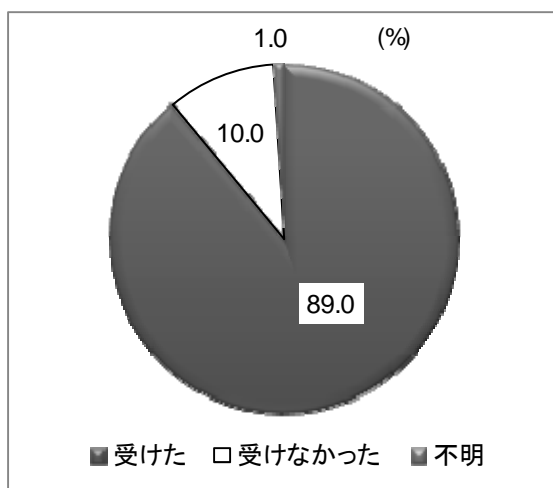


(3) 精密健診・療育支援を受けましたか (問5-②, ③) (SA)

精密健診を勧められて「受けた」子は89.0%と多くの子が受診しています。  
精密健診を「受けた」子のうち、療育支援を「受けた」子は79.8%と多くなっていますが、療育支援を「受けていたがやめた」(9.0%)、「特に療育は勧められなかった」(6.7%)、「受けていない」(3.4%)を加えると、約2割の人が療育支援を受けていません。

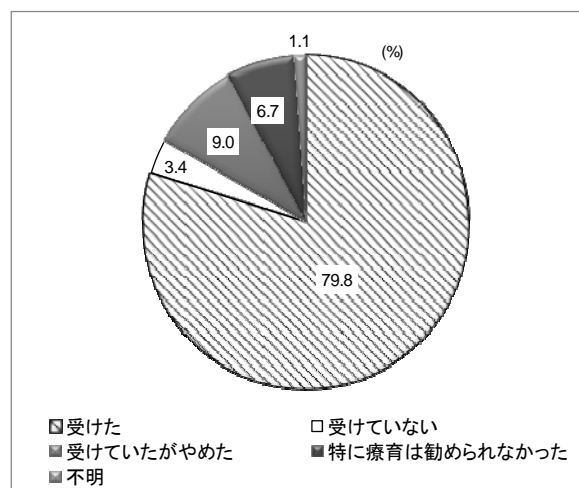
【回答者数：100人】

精密健診を受けましたか



【回答者数：89人】

療育支援を受けましたか



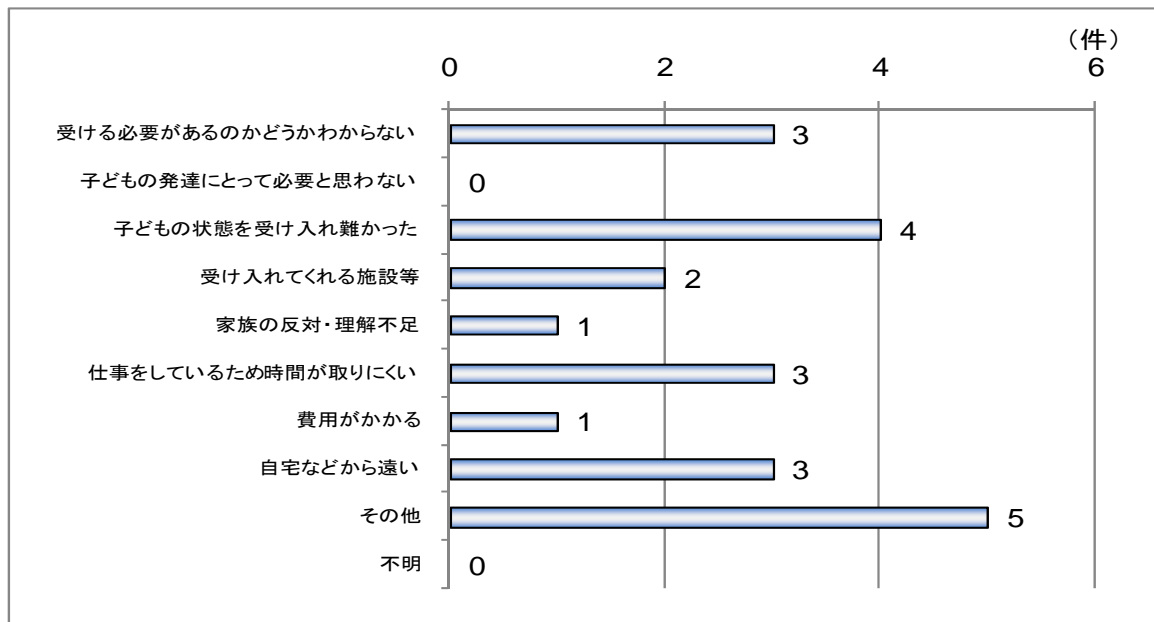
#### (4) 療育支援を受けていない理由（問5-④）（MA）

問5 - で「療育支援を受けていない」または「受けていたがやめた」と回答した人は246件中11件で、回答数が少なく、以下は参考意見として記述します。

「子どもの状態を受け入れ難かった」が4件と一番多く、「受ける必要があるのかどうか分からない」、「仕事をしているため時間が取りにくい」、「自宅などから遠い」が3件となっています。

「その他」の回答は5件ありますが、「療育支援に効果がなく意味がない」、「療育施設を紹介してもらわなかった」、「受けた結果トラブルがあった」、「なかなか行けない状況で機会がなかった」、「勧められなかった」等の意見があります。

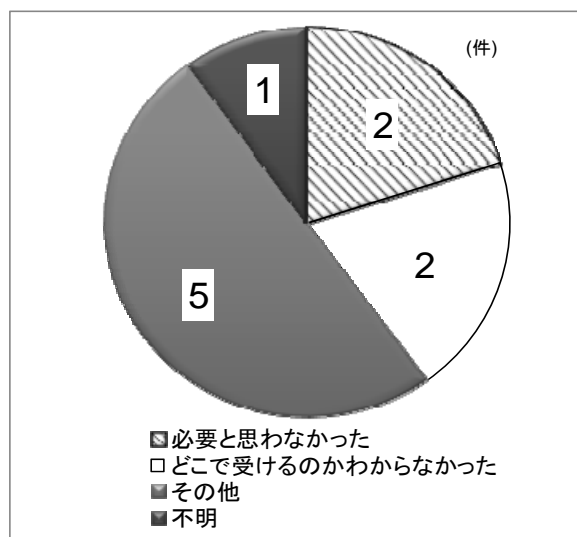
【回答者数：11人】



### (5) 精密健診を受けなかった理由 (問5-⑤) (SA)

精密健診を受けなかった子は10件で数が少なく、以下は参考意見として記述します。  
「必要と思わなかった」、「どこで受けるのかわからなかった」が2件ずつです。  
「その他」の意見としては「考えたくなかった」、「療育の出来る施設が近くになかった」、  
「普通の子で間違いないと周りから言われた」、「相談先がなかった」、「3歳になったら喋ると言われた」等の意見がありました。

【回答者数：10人】

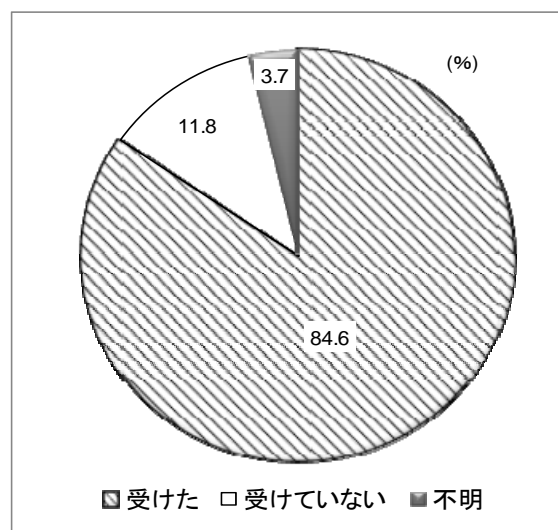


### ◆医師の診断等に関する設問

#### (1) 医師の診断を受けましたか (問6) (SA)

医師の診断を「受けた」子は84.6%で8割以上の子が医師の診断を受けており、「受けていない」子は11.8%です。

【回答者数：246人】

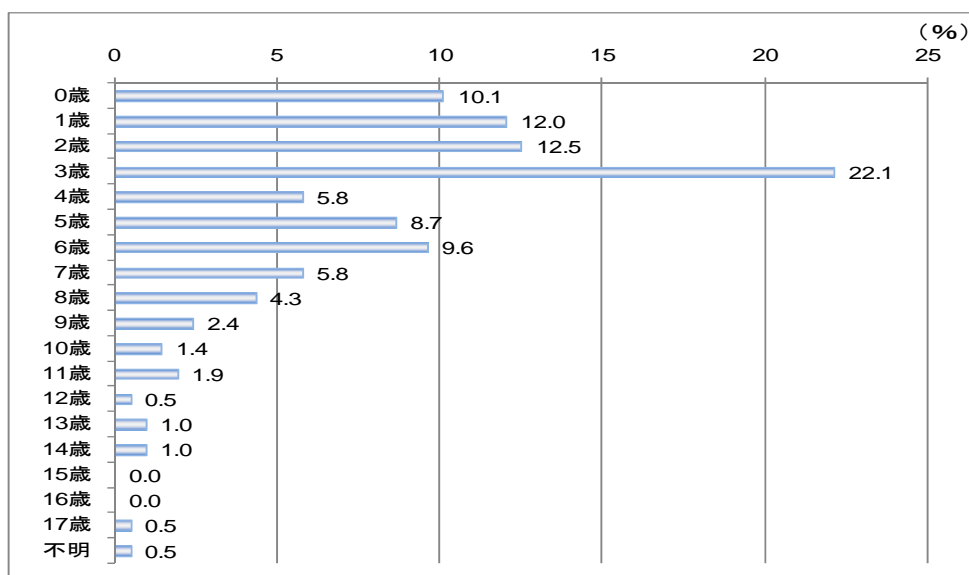


## (2) 医師の診断を初めて受けた年齢（問6-①）（SA）

医師の診断を初めて受けた年齢は「3歳」（22.1%）が一番多く、「3歳」以下で医師の診断を受けた子は56.7%と5割を超えています。

「5歳」以下で医師の診断を受けている子は7割を超えており、乳幼児期に医師の診断を受けている子がほとんどですが、約3割は小学生以上に初めて医師の診断を受けています。

【回答者数：208人】

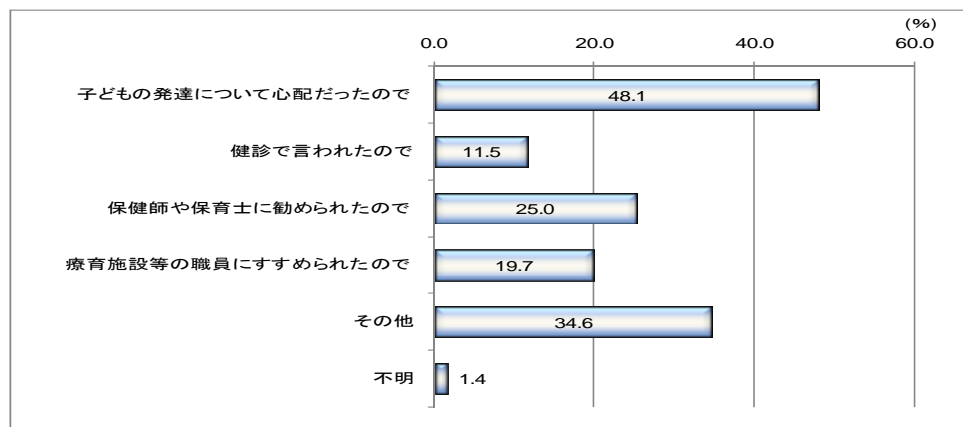


## (3) 受診のきっかけ（問6-②）（MA）

受診のきっかけは、「子どもの発達について心配だったので」（48.1%）が最も多く、次いで「保健師や保育士に勧められたので」（25.0%）、「療育施設等の職員に勧められたので」（19.7%）となっています。

「その他」の意見としては「診断書をもらって来てくださいと言われた」、「不登校になった」、「自分の考えを確かめるため」、「幼稚園や学校で紹介された」、「生まれてすぐ医師に勧められた」、「相談窓口で紹介された」、「普通だと言われていたので病院に行けなかった」、「学校での生活に適応できなかった」等の意見が主なものです。

【回答者数：208人】

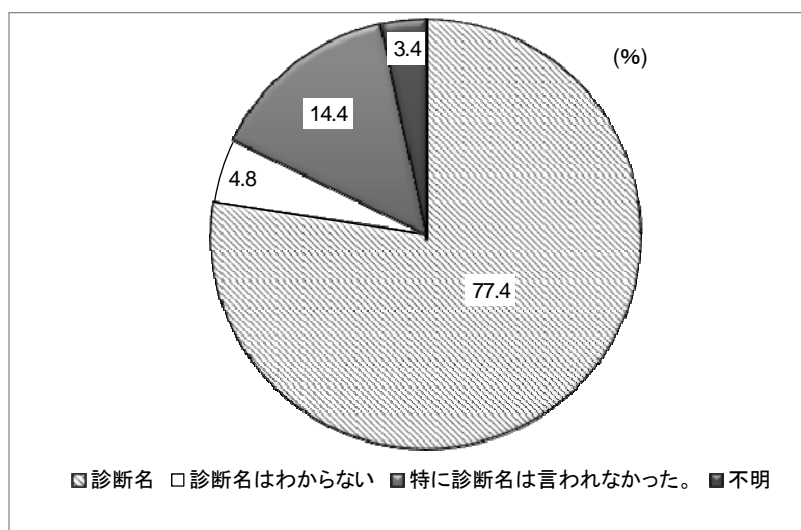


#### (4) 主な診断名（問6-③）（SA）

「診断名」を言われたのは77.4%で、「特に診断名は言われなかった」のが14.4%あります。

「診断名」の記入（MA）は198件あり、主なものは次のとおりです。  
広汎性発達障がい[PDD]（50件）、自閉症（40件）、注意欠陥多動性障害[ADHD]（26件）、アスペルガー症候群（15件）、精神発達遅滞（13件）、知的障がい（9件）、学習障がい[LD]（6件）、ダウン症（6件）

【回答者数：208人】

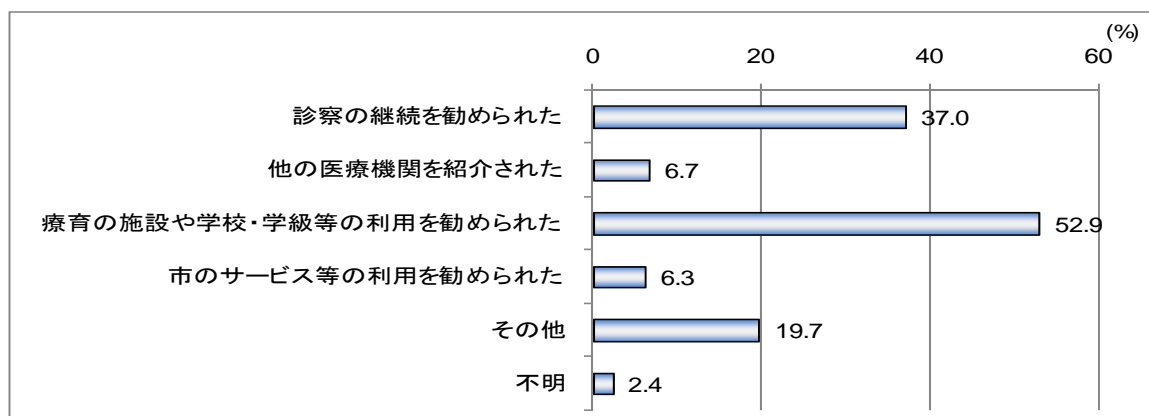


#### (5) 診断を受けた後の医師の指示（問6-④）（MA）

医師の診断後の指示は「療育の施設や学校・学級等の利用を勧められた」が52.9%と最も多く、次に「診察の継続を勧められた」が37.0%となっています。

「その他」としては「医師に何も勧められなかった」という意見のほか、個別の具体的な指示内容についての意見が主なものです。

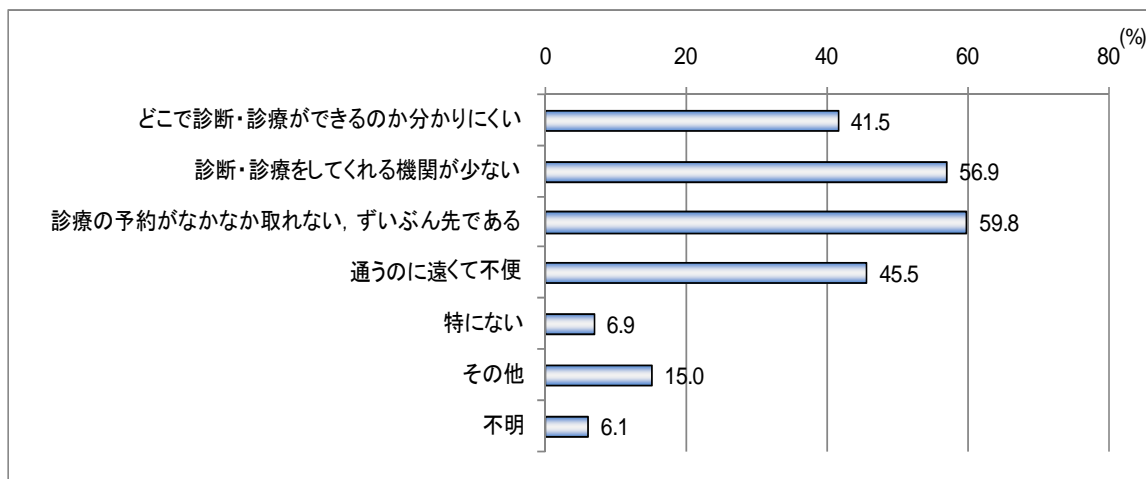
【回答者数：208人】



(6) 診断・診療を受けるにあたり困っていること。(問7)(MA)

診断・診療を受けるにあたり困っていることは「診療の予約がなかなか取れない、ずいぶん先である」(59.8%)が最も多く、「診断・診療をしてくれる機関が少ない」(56.9%)、「通うのに遠くて不便」(45.5%)、「どこで診断・診療ができるのか分かりにくい」(41.5%)が多くなっています。

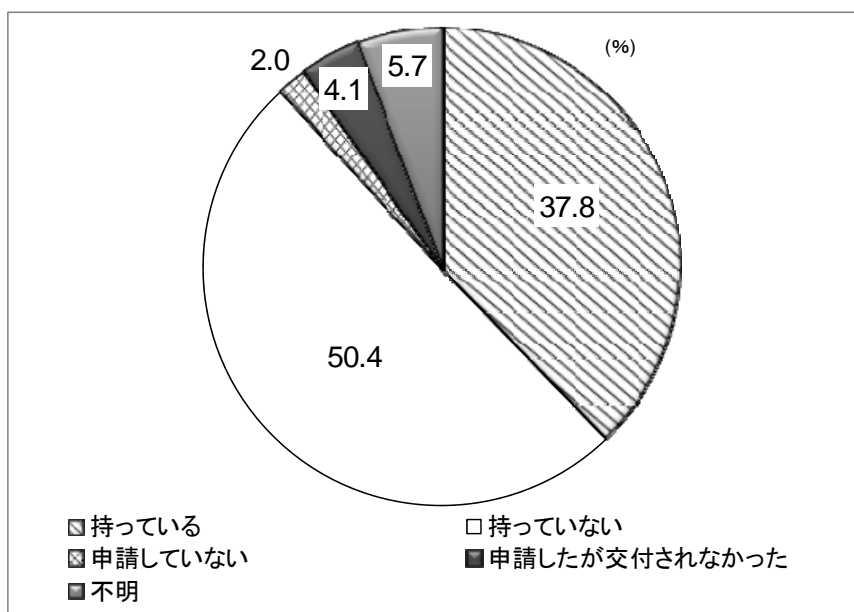
【回答者数：246人】



(7) 障がいの手帳の有無 (問8)(SA)

障がいの手帳については、「持っていない」子(50.4%)が過半数を超えており、「持っている」子(37.8%)を上回っています。

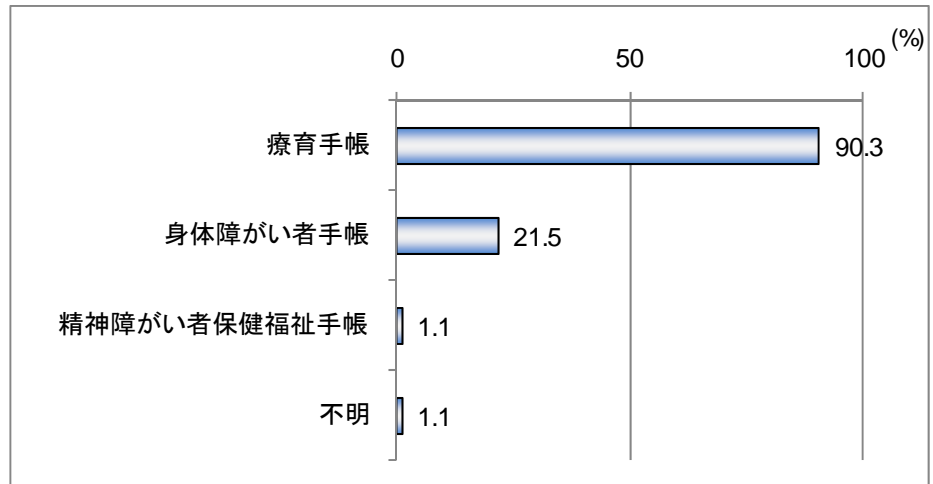
【回答者数：246人】



### (8) 持っている障がいの手帳の種類 (問8-①) (MA)

障がいの手帳を持っていると回答のあったうちの90.3%が「療育手帳」を持っています。  
「身体障がい者手帳」を持っている子は21.5%となっています。

【回答者数：93人】

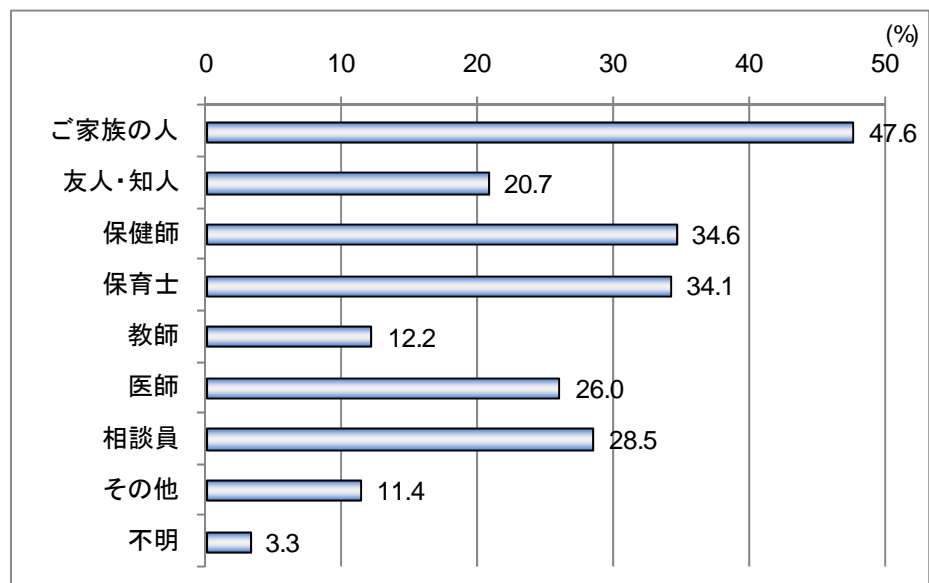


### ◆相談・療育等に関する設問

#### (1) 発達の気になる状態に気づいた頃に相談した相手 (問9) (MA)

発達の気になる状態に気づいた時の相談相手は、「ご家族の人」(47.6%)が最も多く、次に保健師(34.6%)、保育士(34.1%)となっています。

【回答者数：246人】

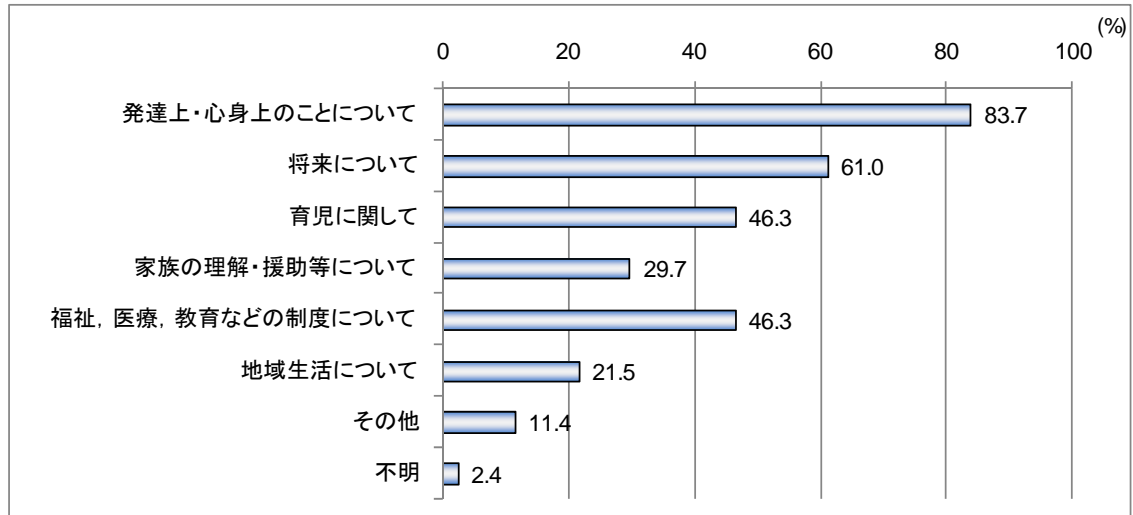




## (2) 発達の気になる状態について相談したいこと (問10) (MA)

発達の気になる状態について相談したいことは、「発達上・心身上のことについて」(83.7%)が最も多く、次いで「将来について」(61.0%)、「育児に関して」(46.3%)、「福祉, 医療, 教育などの制度について」(46.3%)が多くなっています。

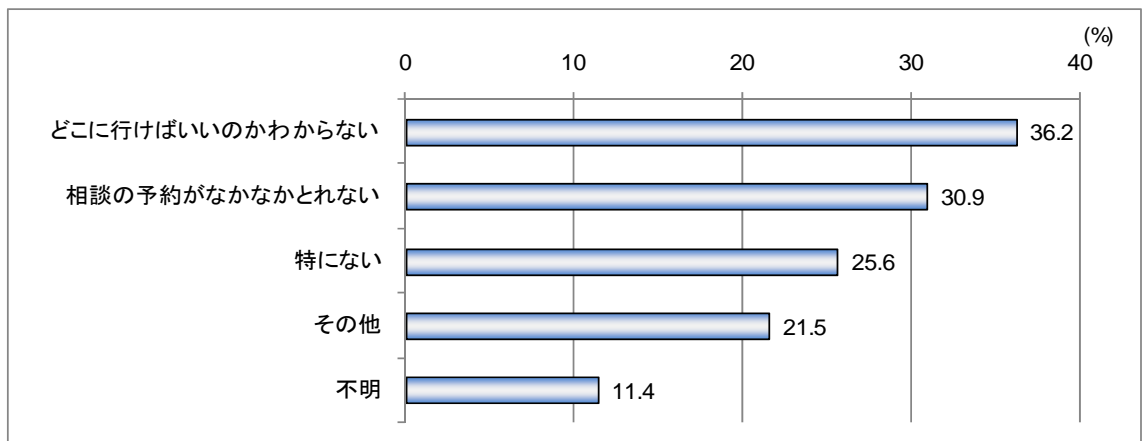
【回答者数：246人】



## (3) 相談するにあたり困っていること (問11) (MA)

相談するにあたり困っていることは、「どこに行けばいいのかわからない」(36.2%)が最も多く、次いで「相談の予約がなかなかとれない」(30.9%)となっています。

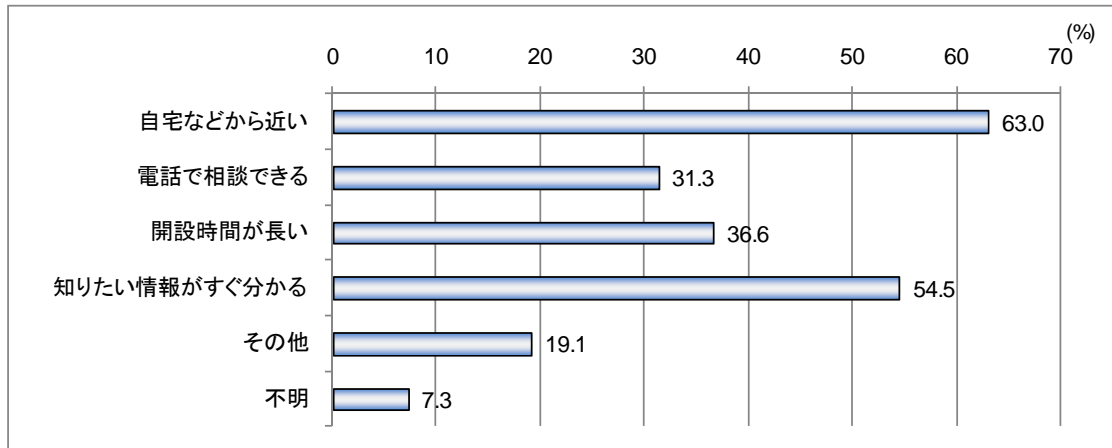
【回答者数：246人】



#### (4) 相談しやすい条件、雰囲気 (問12) (MA)

相談しやすい条件は、「自宅などから近い」(63.0%)が最も多く、次いで「知りたい情報がすぐ分かる」(54.5%)となっています。

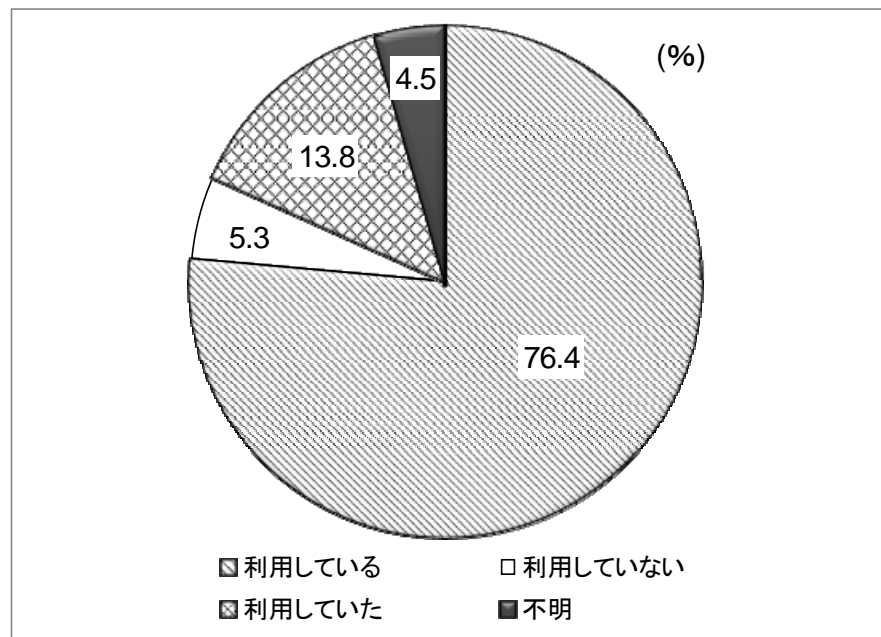
【回答者数：246人】



#### (5) 療育、相談等の施設を利用していますか (問13) (SA)

療育、相談等の施設を「利用している」(76.4%)が最も多く、「利用していた」(13.8%)が次に多くなっています。

【回答者数：246人】



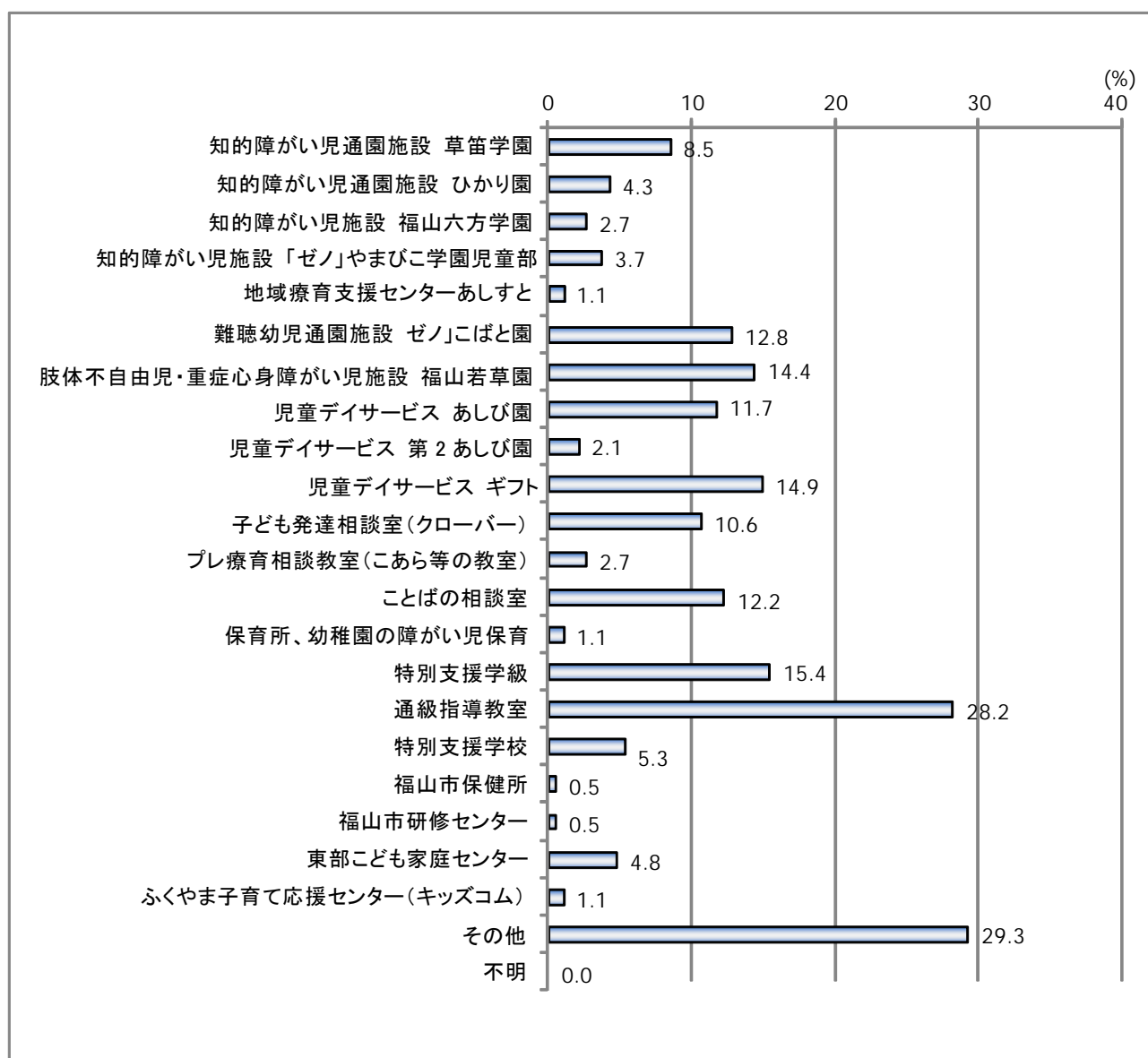
## (6) 利用している施設 (問13-①) (MA)

利用している施設は、「通級指導教室」(28.2%)が最も多く、「特別支援学級」(15.4%)、「ギフト」(14.9%)、「福山若草園」(14.4%)の順となっています。

「その他」29.3%については、次の施設となっています。[順不同]

あづみ園(尾道), 第2あづみ園, かすが, ふぁいと, あいあい(尾道), のぞみ, ほっとルーム, 大日学園, みのり園(府中), ワンワンサークル(尾道), 岡山旭川荘, なのはなクリニック, 県立広島大学附属診療所, 東広島精神医療センター, 県立リハビリセンター, 児童相談所, 県立福山少年自然の家

【回答者数：188人】



※複数の事業や施策を実施している施設もあるため、それぞれの施設の利用の目的は分かりません。

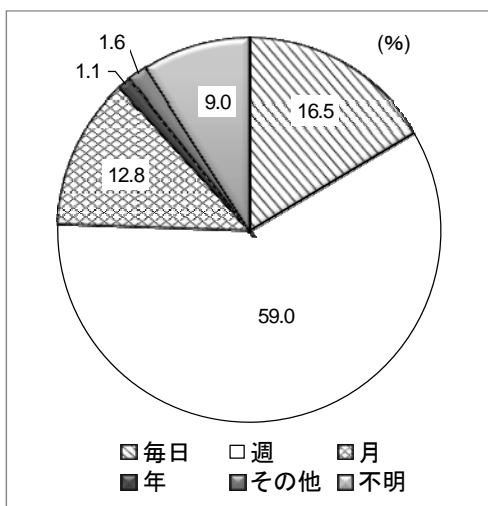
### (7) 利用している回数 (問13-②) (SA)

施設の利用回数は、「週」に数回利用している (59.0%) が最も多く、「毎日」利用している (16.5%) と合わせると 75% を超えています。

週の利用回数は「1回」(43.2%) が最も多く、「2回」(22.5%) と合わせると 65% を超えています。

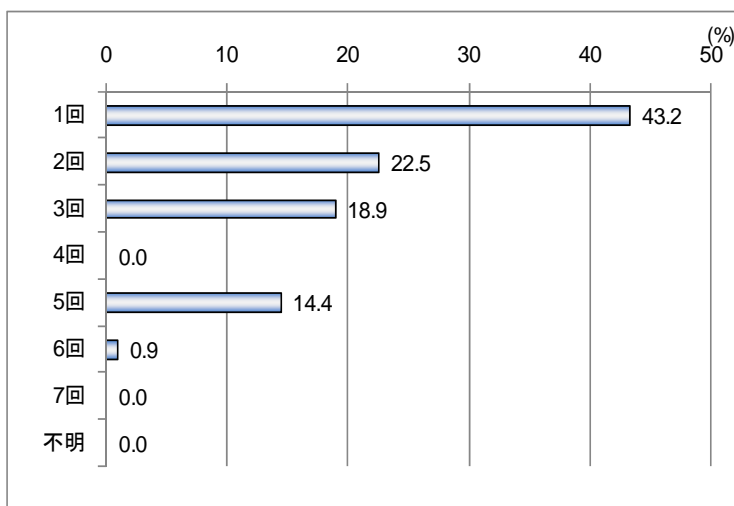
【回答者数：188人】

利用している頻度



【回答者数：111人】

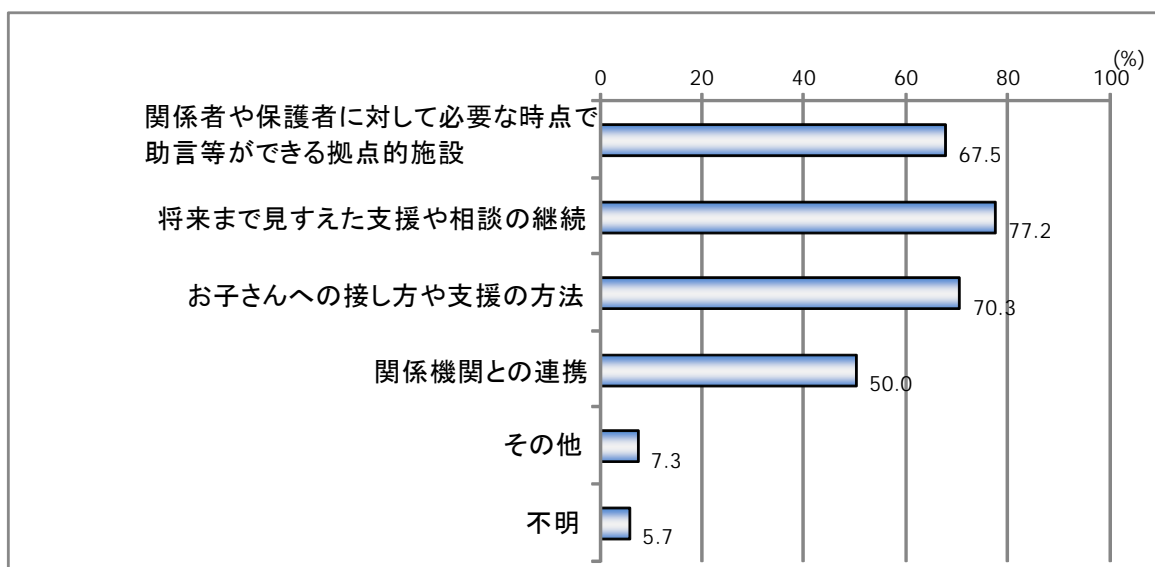
週に利用している回数



### (8) 療育施設等に期待すること (問14) (MA)

療育施設等に期待することは、「将来まで見すえた支援や相談の継続」(77.2%) が最も多くなっていますが、「お子さんへの接し方や支援の方法」(70.3%)、「関係者や保護者に対して必要な時点で助言等ができる拠点的施設」(67.5%) も同様に多くの期待がされています。

【回答者数：246人】

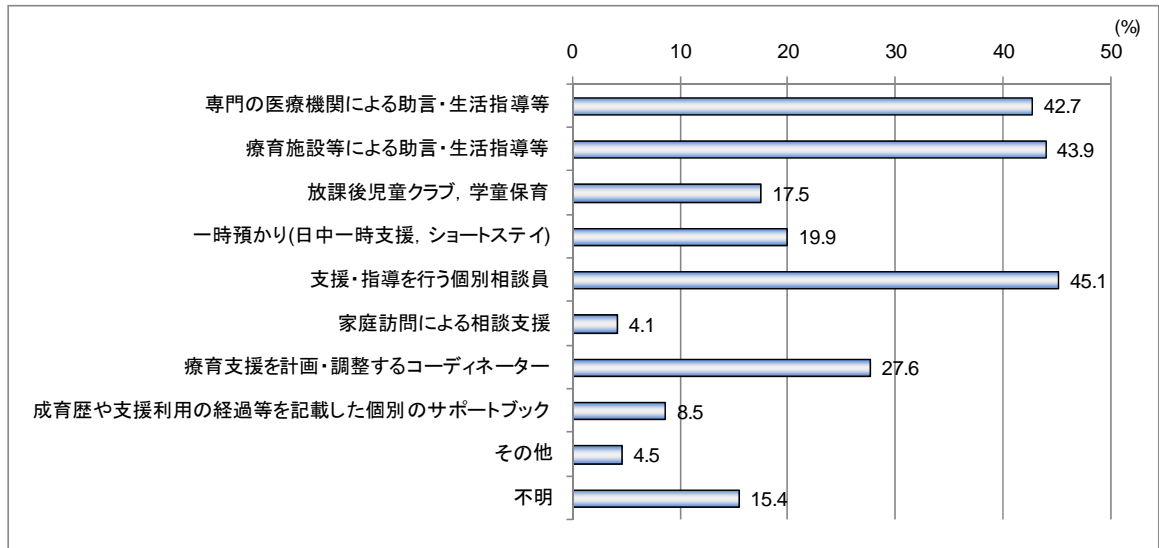


## ◆生活支援に関する設問

### (1) 子どもの生活に関して望む支援（問15 ○は3つ）

子どもの生活に関して望む支援は、「支援・指導を行う個別相談員」（45.1%）が最も多く、「療育施設等による助言・生活指導等」（43.9%）、「専門の医療機関による助言・生活指導等」（42.7%）についても同様に多くの希望があります。

【回答者数：246人】

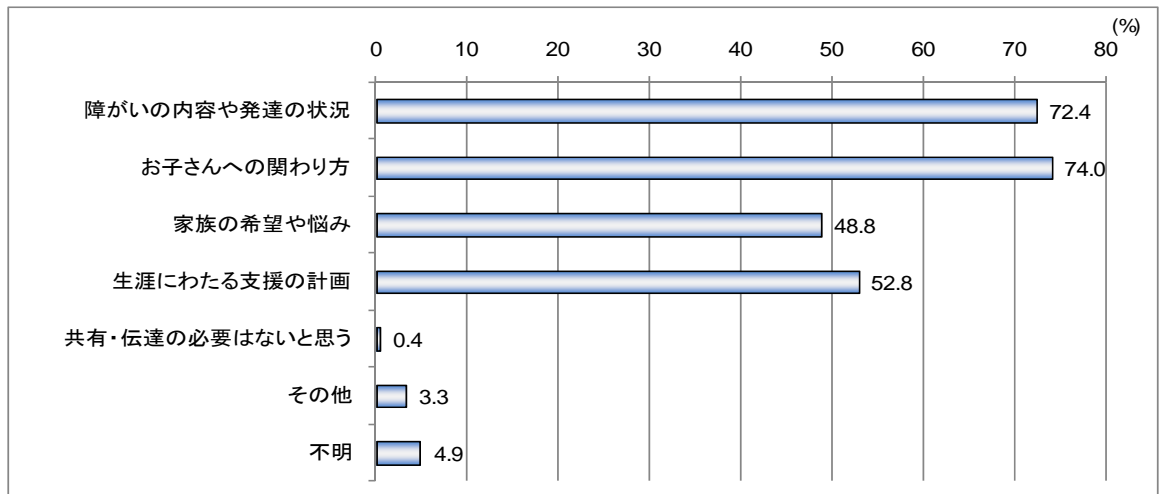


## ◆療育施設等の連携に関する設問

### (1) 療育施設等の連携において共有・伝達すべき情報（問16）(MA)

療育施設等の連携において共有・伝達すべき情報は、「お子さんへの関わり方」（74.0%）、「障がいの内容や発達状況」（72.4%）が最も多くなっています。「共有・伝達の必要はないと思う」（0.4%）はほとんどありません。

【回答者数：246人】



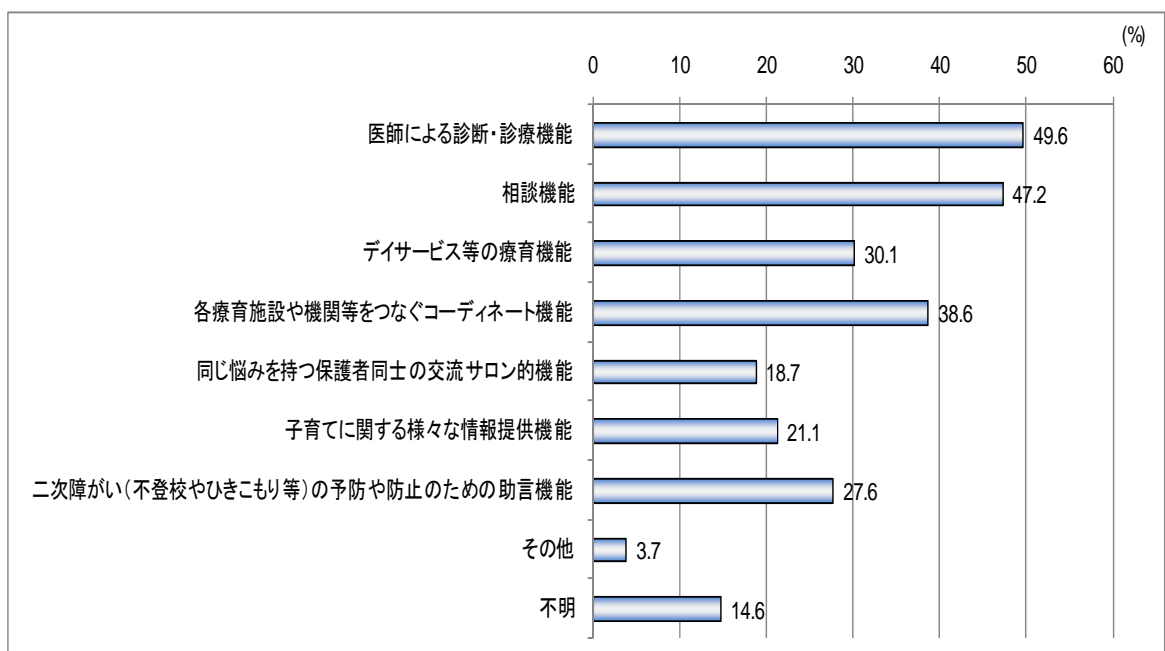
## ◆（仮称）療育センターに関する設問

### （１）（仮称）療育センターに必要と思われる機能（問１７ ○は３つ）

（仮称）療育センターに必要と思われる機能は「医師による診断・診療機能」（49.6％）、「相談機能」（47.2％）が最も多くなっています。

次に「各療育施設や機関等をつなぐコーディネート機能」（38.6％）、「デイサービス等の療育機能」（30.1％）、「二次障がい（不登校やひきこもり等）の予防や防止のための助言機能」（27.6％）となっています。

【回答者数：246人】



## 3

## (仮称)療育センターに対する意見(自由意見)

アンケート票の末尾に、(仮称)療育センターに対する希望や自由な意見の記述をお願いしました。その結果は次のとおりです。

## ◆意見数と意見分野

## (1) 意見数

本アンケートの回答者 246 人に対し、自由意見の記入は 50.8%にあたる 125 人で、意見数は 213 件、1 人当たりの意見数は 1.7 件でした。

## (2) 意見分野

自由意見欄に記入された意見について、その内容別に「その他」を含む 11 の分野に分類した意見数の結果は次の表とおりです。

最も多い意見としては、「施設整備のあり方に関する意見」が 46 件 (21.6%)、次いで、「将来にわたる拠点 (づくり)・施設の通園年齢に関する意見」が 35 件 (16.4%)、「相談員・相談窓口に関する意見」が 34 件 (16.0%)、「障がい・療育に関する意見」の 24 件 (11.3%) となっています。

意見分野別記入件数

意見分野	意見数(件)	割合 (%)
施設整備の内容に関する意見	46	21.6%
将来にわたる拠点 (づくり) の在り方や 施設の通園年齢に関する意見	35	16.4%
相談員・相談窓口に関する意見	34	16.0%
障がい・療育に関する意見	24	11.3%
専門職の設置・スキルアップ・研修に 関する意見	19	8.9%
療育センター建設への期待に関する意見	15	7.0%
施設の連携に関する意見	11	5.1%
支援に関する意見	10	4.7%
療育センターの設置場所に関する意見	8	3.8%
情報提供・親同士の交流に関する意見	7	3.3%
その他	4	1.9%
合 計	213	100.0